

令和6年3月6日

足立区立東綾瀬中学校
校長 渡邊 英晴 様

足立区立東綾瀬中学校 開かれた学校づくり協議会

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

自己評価書の評価は概ね妥当だと思われる。

- 基礎学力の向上については、区学力調査において通過率65%以上という達成基準に対して、全学年達成したことは大変評価できる。しかし、数学が45%前後の通過率は改善すべきである。
- 不登校の出現率が減少していることは評価できる。今後も、別室登校等の対応や登校サポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携をさらに深め、不登校生徒への対応・対策を十分に行ってほしい。
- 生徒の自己肯定感や自己有用感の向上のため、PBSを組織的に行おうとすることは評価できる。その上で、生徒の意識調査が学年を追うごとに上昇している傾向は、指導を3年間の積み重ねの成果の表れであると考え。今後もさらなる取り組みをしてもらいたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

学校から提示された「課題」は、①学力向上②豊かな心の育成③ICTの有効活用の3点である。

- ①学力向上では、サマースクールや放課後補充の取組をさらに充実させてほしい。家庭学習は学校と家庭が一体となって取り組まなければいけない課題なので、協議会としても学校との連携を密にして課題解決に努めていきたい。また、1人一台端末の有効活用の研鑽をしてもらいたい。
- ②一昨年度までの東京都人権尊重教育推進校の取組の元、本年度はPBSの発展的な指導により、生徒の豊かな心の育成を図っていた。前年度までの取組により、生徒の意識が学年を追うごとに上がっているので、今後もさらに発展させてもらいたい。
- ③新しい機器を活用して、子供たちの学習意欲の向上や、個々の課題に沿った指導の工夫、グループ活動の重質など、さらに発展させられることが、最終的に学力向上につながると考える。今後もAIドリルの取組だけでなく、タブレットの授業活用の推進をしてもらいたい。

3 その他

○学校評価アンケートでは、「新校舎に対する説明が適切に行われている」が26.5%。「授業で子供たちに学力がついている」「宿題などの課題を適切に与え、家庭学習を充実している」の双方24.5%が否定的（肯定的回答60%以上）な回答となっている。特に、学校の取組を保護者に発信・周知方法を改め不安改善及び保護者も実感できる実践をしてほしい。